

施策番号	113	施策名	地域福祉の推進	主管課名	保健福祉課
総合計画 体系	政策名	1	こころあたたかい福祉の里づくり	令和 2 年度課長名	水島 剛
	関係課名			シート作成者	片田 知宏

1. 施策の対象と意図の指標

① 施策の対象(誰、何が対象か)		③ 対象指標(対象の数・規模)		単位	区分	30 年度	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度
ア 町民	→	ア	町民人口	人	見込値			12,143	11,970	11,800
						実績値	12,926	12,754	12,625	
イ	→	イ			見込値					
						実績値				
ウ	→	ウ			見込値					
						実績値				
② 施策の意図(対象をどうしたいのか)		④ 成果指標(意図の達成度)		単位	区分	30 年度	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度
ア 地域で支えあう福祉活動を実践してもらおう	→	ア	地域全体で支えあう福祉が実現していると思う町民の割合	%	目標値	52.0	56.0	60.0	55.0	56.5
					実績値	54.5	54.4	52.8		
					達成率	104.8%	97.1%	88.0%	96.0%	93.5%
イ 住み慣れた地域で安心して暮らしてもらおう	→	イ	近所付き合いをしている町民の割合	%	目標値	68.0	69.0	70.0	61.0	62.0
					実績値	54.3	59.3	59.5		
					達成率	79.9%	85.9%	85.0%	97.5%	96.0%
ウ	→	ウ	社会福祉協議会会員数(参考)	人	目標値	1,080	1,090	1,100	1,050	1,050
					実績値	1,068	1,038	1,057		
					達成率	98.9%	95.2%	96.1%	100.7%	100.7%
エ	→	エ			目標値					
					実績値					
					達成率					
⑤ 成果指標 設定の考え方	ア 地域福祉が実現できていると思っている町民の割合。 イ 近所付き合いは地域づくりに欠かせないものであるため。 ウ 社協会員は地域福祉づくりの意識を持っていると考えられるため。			⑥ 成果指標の 把握方法と 算定式等	ア、イ 町民アンケート(対象者1,000人中481人が回答) ウ 担当課資料					

2. 施策の役割分担

	① 住民の役割 (自助・共助・協働でやるべきこと)	② 行政の役割 (町・都道府県・国がやるべきこと)
施策成果向上 に向けた 住民と行政との 役割分担	・近所付き合い、地域住民による目配り気配り思いやり、未来希望基金の有効活用等地域住民主体で行う。また社会福祉協議会等と共同で地域支え合いマップ作り等地域の活性化を行う。	・地域リーダーの育成が不可欠であり、社会福祉協議会等と協力していく必要がある。 ・民生児童委員及び老人クラブ等による要援護者の洗い出し、緊急時の対策マニュアルの作成、訓練等を行う必要がある。

3. 評価結果

1. 施策の成果水準とその背景・要因	
2 年度 の 評価結果	① 成果指標の時系列比較(成果は向上したか? 低下したか? 要因は?)
	・「社会福祉協議会会員数」は年により微減・微増をしているが、会員の主力が比較的高年齢の住民のためであるため、増減の波があると思われる。「近所付き合いをしている町民の割合」は、年々増加しているが、「地域全体で支えあう福祉が実現していると思う町民の割合」は減少傾向である。原因としては、地域の過疎高齢化、人口減少が一段と進むなか、2年度においては、特にコロナ禍の影響が大きく地域での支え合いの機会が減少したことも要因の一つと考えられる。
	<input type="checkbox"/> 向上した <input type="checkbox"/> ほとんど変わらない <input checked="" type="checkbox"/> 低下した
	② 他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか、低いのか、その背景・要因は?)
	・鏡野町民が「近所付き合いをしている町民の割合」は、59.5%で、令和2年度内閣府世論調査で、近所付き合いが、「よく付き合っている」16.4%、「ある程度付き合っている」49.0%の合計65.4%(全国平均)であり、やや低いほぼ同水準にあると思慮される。なお国は経年微減、町は年により差異はあるものの増加傾向にある。また、アンケート結果を見ると、中谷、香北地区は近所づきあいをしている割合が高く、芳野、大野地区は近所づきあいをしていない割合が高くなっている。
	<input type="checkbox"/> 高い水準 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準 <input type="checkbox"/> 低い水準
③ 住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準か、低い水準か、どんな意見や要望が寄せられているか?)	
・評価結果は、町民アンケートの数値からは、一定の水準は保っているものの、コロナ禍の影響が大きく、期待水準より低いと言わざるを得ない。また、アンケートによる意見としては、地域や年齢層による課題を把握し、必要な支援や他機関との連携を望む意見があった。	
<input type="checkbox"/> 高い水準 <input type="checkbox"/> ほぼ同水準 <input checked="" type="checkbox"/> 低い水準	
2. 施策の成果実績に対する 2 年度の取組や目標達成度	
■ 2 年度の主な取組の成果(改革改善した取組、目標の達成度は?)	
・地域福祉の推進は、町民の生活に関わるもの全てであり、福祉バスの運行から、各福祉センターの管理運営など、多岐にわたり、令和2年度も公の施設の指定管理業務を行った。災害に備えて30年度に避難行動要支援システムを導入し令和2年度より避難行動要支援者名簿の本格的な運用を開始している。また全般的な活動・支援により、地域で支えあうまちづくりを進めるとともに、心配ごと相談や弁護士無料相談の実施等により生活弱者に対する支援を行った。合わせて、令和2年4月設立の権利擁護センターを周知していくとともに町民の権利擁護を支援する事業を実施した。	
<input type="checkbox"/> 目標値以上 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおり <input type="checkbox"/> 目標値以下	
3. 施策の今後の課題と改革改善の方向(うまくいかなかった取組や事務事業は? その原因は?)	
・「地域全体で支えあう福祉が実現していると思う町民の割合」がここ数年は緩やかな減少傾向ではある。要因については、地域づくりが人口の多い地域についてはまだ浸透できていないためと思われる。また、2年度においては、コロナ禍の影響もあり地域で支えあう福祉活動の機会が減少していることも影響していると思われるため、3年度においては、コロナ対策を十分講じながら地域ケア会議を実施していく。 ・今後、避難行動要支援システムの運用とあわせて、社協と協力関係を築きながら、個別避難計画の策定に取り組んでいく。 ・高齢者や障害者等の交通手段の確保をしていくため、タクシー利用料の一部を助成する事業を検討していく。 ・地域福祉において、住民の見守り、協力は不可欠なものである。住民関係の希薄化が懸念される状況が進む中、今後とも30年度に策定した「町地域福祉計画」を基本に、啓蒙や各団体・組織の連携を図り、各ボランティア団体、NPO、老人クラブ、社会福祉協議会等と協力して、要介護状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで続けることが出来るように地域内で助け合う体制を目指した地域づくりを推進していく。	